

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	17-030	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
A meta-analysis of acute use of alcohol and the risk of suicide attempt. 急性アルコール摂取と自殺未遂に関するメタ・アナリシス		
執筆者		
Borges G, Bagge CL, Cherpitel CJ, Conner KR, Orozco R, Rossow I.		
掲載誌		
Psychol Med. 2017 Apr;47(5):949-957. doi: 10.1017/S0033291716002841. Epub 2016 Dec 8.		
キーワード		PMID
急性アルコール摂取、症例対照研究、case-crossover study、メタ・アナリシス、自殺未遂		27928972
要 旨		
<p>目的： 急性アルコール摂取（AUA）が自殺未遂に与える影響について、疫学研究のメタ・アナリシスにより検討する。</p> <p>方法： 1996～2015年に出版された英語論文を Medline、PsycINFO、Google Scholar より検索した。検索条件は、AUA の自殺未遂に対するオッズ比（OR）が記載されているものとした。AUA は自殺未遂の 3-24 時間前のアルコール摂取とし、アルコール摂取量別（低 AUA と高 AUA）に 2 層化して解析した。アルコール摂取量の区分は研究間で異なり、アルコール摂取 0.001-100g または 4 杯（女性 3 杯）、血中アルコール濃度 0.10mg/dL をカットオフとして定義された。自殺未遂の定義も研究間で異なったが、多くは緊急事態であり、医療相談に発展するような深刻な自殺未遂であった。ランダム効果モデルにて AUA の自殺未遂 OR および 95%信頼区間（95%CI）を算出し、研究間の異質性は I² および Cochran の Q 統計量にて評価した。</p> <p>結果： 抽出された 7 研究（症例対照研究 3 研究、case-crossover study 4 研究）の AUA の割合は平均 33%（26.5～44.4%）であった。AUA では自殺未遂リスクが有意に高く（OR 6.97, 95%CI 4.77-10.17）、研究間の異質性は認めなかった（I² = 46.4%, P = 0.097）。アルコール摂取量別では、低 AUA の自殺未遂 OR は 2.71（95%CI 1.56-4.71, I² = 0.0%, P = 0.494）、高 AUA の自殺未遂 OR は 37.18（95%CI 17.38-79.53, I² = 0.0%, P = 0.567）とどちらの層でも有意な正の関連を示し、いずれも異質性はなかった。</p> <p>結論： AUA は自殺未遂リスクと関連し、特にアルコール摂取量の多い場合に強く関連した。今後はアルコールの慢性的影響だけでなく、急性的な弊害についても議論し、AUA が自殺未遂のリスクを上げるメカニズムについて検討する必要がある。</p>		